

2026年(令和8年)10月28日(水曜日) **ワイド2** 北関東 (8)

花いけバトル茨城大会

県立小瀬高「芝桜」チーム 全国へ

【いばらき】いばらきの花振興協議会は10月中旬、水戸市で「全国高校生花いけバトル茨城大会2026」を開いた。県内や群馬県の10校29チームが参加。予選会、準決勝を勝ち抜いた茨城県立小瀬高校「芝桜」チームが頂点を極めた。

同大会は、県産花きの消費拡大と花き文化の振興を目的に、県花き園芸協会、J A全農いばらき、県などで構成する同協議会が主催。今回で7回目。

花いけバトルは、高校生2人一組でチームを組み、会場に用意された花器や花材を選びながら即興で花を生

け、制限時間の5分以内で作品を仕上げる。審査は製作中の所作の美しさや作品の出来栄を競う。専門審査員の得点と観客からの加点で勝敗を決める。

大会では、壇上で学校、チーム、選手名が呼び上げられ、それぞれが意気込みを披露。J A常陸奥久慈校物部会が用意した枝約50種の他、流木やつるなどの花材を選び、先鋒、次鋒が2分半ずつの持ち時間内で作品を完成させた。

バトル後の感想発表で、出場生徒からは「バラが見事だったのを選んで。自分なりにいい出来だったと思う」「想定以上にきれいに生けられた」などの声が聞かれた。

花材を提供協力した奥久慈校物部会の笹島誠一装飾部長は「花材を選ぶときの高校生の輝く表情がうれしい。5分の中にドラマがあり、見てワクワクする」と話した。

決勝戦は、県立小瀬高校と水戸養陵高校が闘い、小瀬高校のチーム「芝桜」（菊池大翔、根本聖那）が優勝した。優勝チームは、来春に香川県で開催予定の全国大会への出場権を得た。



壇上で即興で花を生けていく高校生（水戸市で）